ＪＴＢ　広域代表からのメッセージ

持続可能な地域の発展に向けて

西日本

万博を起点に人流創出

執行役員 ツーリズム事業本部 西日本エリア広域代表
大阪IR推進担当 大阪・関西万博推進担当
北村 豪

新型コロナ感染症が5類に移行して1年が過ぎた。今年のゴールデンウイークは昨年を超える人出になったと感じている。そして、訪日市場では最新の発表である3月が単月の旅行者数として過去最高を記録するなど、国内旅行の需要拡大への期待がより一層高まっている。

昨年のメッセージでは、2023年を「関西大着地構想」の考えのもと準備してきた取り組みを「実行・実践」に移す1年と位置づけた。その成果の一つとして、京都のJTBグループのリソースを結集した「京都プロジェクト」から、商品を通じて文化の継承、振興に、さらには地域課題解決にも貢献を目指す京都観光プラットフォーム「LINK KYOTO」を9月に公開した。これをモデルケースに、お客さまをお迎えする着地の目線で、魅力ある地域づくりの推進、地域の活性化へ資するアクションの可視化を、関西エリア全体で進めていく。そして、この取り組みは関西を訪れる日本人および訪日外国人旅行者の拡大にも必ず貢献するものだ。

大阪・関西万博（以下、万博）の開幕まで1年を切り、公式キャラクターの露出スポット、関連イベントの開催が増加し、開幕までのカウントダウンを実感するようになってきた。そして、万博開幕やその先の大阪IRの開業に合わせ、ホテルの新規開業、今後の開業予定も目白押しで、関西は活気づいてきている。

JTBは「大阪・関西万博公式 観光ポータルサイト」へ協賛し、昨年10月にティザーサイトをオープン、4月から観光コンテンツの販売を開始した。観光ポータルサイトは、万博のテーマに関連した、魅力あふれる観光地や旅のプランを紹介し、万博を起点にした、全国各地への人流創出への貢献を目指している。日本全国のJTB支店が、地域と密着して取り組んだ魅力あるプランでサイトを充実させることで、関西からの周遊を促進してゆく。旅ホ連各支部の皆さまとはこれまで以上にコミュニケーションを図り、宿泊券の増売につなげるべく、観光が地域の持続可能な発展に貢献することを示していきたい。

中国

誘客促進、共創共栄へ

ツーリズム事業本部 中国エリア広域代表
兼広島支店長
濱口 剛

昨年5月に新型コロナが5類感染症に移行して1年が過ぎ、日本人および訪日外国人の日本国内旅行は平時に戻ったと実感している。円安や海外と比較した日本の物価安の影響で中国エリアにおいても訪日需要は伸びており、今後のさらなる増加が期待できる。一方で首都圏・関西・九州エリアの伸び率には及ばず、中国エリアにおける情報発信や受け入れ態勢の高度化の必要性を感じている。

広島支店では中国四国エリアに特化した訪日インバウンド向けプラットフォームを設置した。BtoB、BtoC対応はもちろん、地域の事業パートナーの皆さまと共にインバウンド戦略を構築できる受け入れ体制を整えた。さらに、訪日インバウンド専用サイトも開設し、地域の魅力の積極的な発信を通して、誘客と創客を推進していく想定だ。

中国四国の各支店は地域の事業パートナーや自治体の皆さまに正対して、コンテンツの磨き上げと専用サイトでの販売、旅行博出展や海外旅行会社への直接営業も積極的に進めていく。JTBグローバルマーケティング&トラベルとは役割を明確に分けた、中国四国エリアに注目を集める取り組みが必要不可欠であると考えている。

今年度は、国内における地域間交流の加速（発着連携）、海外旅行需要の本格的な回復期を迎えると捉え、中国エリアでのアウト・イン双方向チャーターを戦略的に実行し、当社の国内・海外ネットワークを生かした交流創出を加速させていきたい。

交流創出を推進する上で重要なことは、ツーリズムがサステナブルな社会の実現を妨げていないことだ。高校生による観光事業企画を競うコンテストのSDGs修学旅行部門で準グランプリを獲得した学生発案のプランを、江田島市と広島支店が伴走支援し、「JTBならではプラン」として商品化を行った。

このような産・官・学で連携した取り組みも推進しながら、交流の拡大と環境負荷削減、サステナビリティへの貢献を同時に目指す「地域との共創共栄」を基軸に宿泊増売・地域誘客を進めていく。世界と地域をつなぐ当社のパフォーマンスに期待していただきたい。

四国

持続可能なにぎわい創出

ツーリズム事業本部 四国エリア広域代表
兼高松支店長
濱田 充

四国路に春の訪れを告げる『四国こんぴら歌舞伎大芝居』が5年ぶりに開催された。公演前日には、役者を乗せた人力車が町を練り歩く催し（お練り）が行われ、町は〝のぼり〟と、お練りの見物客であふれた。公演初日から多くの観客が「江戸時代の芝居小屋さながらの臨場感、本当に近くで見られて、来たかいがあった」と『四国こんぴら歌舞伎大芝居』だからこそ体感できる魅力に酔いしれたところだ。

6月のよさこい祭り、8月の阿波おどりと四国を代表するイベントに挟まれた7月には、5年半ぶりに道後温泉本館の営業も再開される。訪日外国人旅行者の増加や地域のにぎわいにあわせて宿泊需要の拡大も期待されるところである。

私たちは、この好機を生かして二つの取り組みを強化していく。一つ目は、旅ホ連加盟施設さまの販売の最大化を目指す取り組み。二つ目は地域の魅力を発掘し、その魅力をお客さまに快適に利用いただく『仕組み』の構築と発信（商品化）によって、地域における観光消費額の最大化を目指す取り組みだ。具体的には商品化した着地コンテンツを予約管理・販売管理が可能なシステム「JTB BOKUN」の活用推進や、持続可能な地域づくりに向けた連携強化だ。本年2月、高松市と「高松市中央卸売市場を中心とする地域活性化に向けた包括連携協定」を締結した。その実行フェーズとして5月に市場エリア内に観光交流拠点「SICSサステナブルラウンジ」を開設した（※SICS〈シックス〉＝JTBの事業「瀬戸内アイランド・コンシェルジュ・サービス」の略称。1階は市場に流通しづらい未利用魚や規格外野菜などを活用した飲食店「クセモノズ」、2階は地域と旅行者を結ぶ交流スペースを展開している。

大阪・関西万博が開催される2025年は、瀬戸内国際芸術祭、かがわ総文祭、連続テレビ小説「あんぱん」の放映など、四国でもイベントが目白押しだ。私たちが地域にとって唯一無二の存在となるべく、新たな人流の創出と持続可能な地域のにぎわいづくりに意志を持って行動し、貢献していきたい。

九州

連携で新たなステージ

執行役員 ツーリズム事業本部
九州エリア広域代表
篠崎 和敏

このゴールデンウイーク、九州経済調査協会発表の九州の人出予想では、2019年比の全国平均（94・4%）を上回る予想であったが、最終日以外は天候にも恵まれて、ほぼその予想通りとなったと感じており、コロナ禍前の日常を取り戻した。

昨年度は、新型コロナの5類感染症への引き下げ、国や自治体の需要喚起策、さらには世界水泳選手権2023福岡大会、燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会、バドミントン・熊本マスターズジャパン2023などのイベントもあり、九州の観光業はにぎわいを取り戻し、業績も回復基調となった。今年度も北部九州高校総体（大分・福岡・佐賀・長崎の4県開催）やSAGA2024国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会など全国から注目される機会はある。

訪日需要については、2023年12月の福岡空港の入国外国人数はコロナ禍前（2019年）同月から78・9%増（出入国管理統計）と大きく伸び、観光業の回復に大きく貢献した。今年1月には、「ウォール・ストリート・ジャーナル」にて、2024年の行くべき場所ベスト10」の一つに「九州」が選ばれ、訪日外国人の増加はさらに加速していくと予想される。

この観光需要回復の機会に、九州観光機構・セールスフォース社と連携した観光DX推進プロジェクトによるリピーターリードしていく所存である。

会主導で取り組んでいる九州MaaSとの連携、観光におけるシームレスなサービス提供の実現を目指していく。

また、立命館アジア太平洋大学との包括連携協定を実質的に機能させ、新たな教育プログラムや地域を元気にする事業の創出に取り組んでいく。

これらの取り組みは、九州エリアで定めている2028年のありたい姿「地域との関係を強め、九州と全国、九州と世界、産官学をつなげて地域の発展に貢献する」を実現していくためのものである。

九州エリア社員一同、この目標を実現すべく各事業パートナー、自治体、教育機関の皆さまとの連携を深めて、九州のサステナブルな観光の実現を促進のためのサービス開発に努め、九州経済連合会、選手権2023福岡大会、燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会、バドミントン・熊本マスターズジャパン2023などのイベントもあり、九州の観光業はにぎわいを取り戻し、業績も回復基調となった。今年度も北部九州高校総体（大分・福岡・佐賀・長崎の4県開催）やSAGA2024国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会など全国から注目される機会はある。

訪日需要については、2023年12月の福岡空港の入国外国人数はコロナ禍前（2019年）同月から78・9%増（出入国管理統計）と大きく伸び、観光業の回復に大きく貢献した。今年1月には、「ウォール・ストリート・ジャーナル」にて、2024年の行くべき場所ベスト10」の一つに「九州」が選ばれ、訪日外国人の増加はさらに加速していくと予想される。

この観光需要回復の機会に、九州観光機構・セールスフォース社と連携した観光DX推進プロジェクトによるリピーターリードしていく所存である。

沖縄

沖縄と共に育つ

沖縄JTB 代表取締役 社長執行役員
桂原 耕一

2023年は沖縄県観光入域客数が823万5400人となり、国内観光客はコロナ禍前の2019年と同水準まで回復した。「全国旅行支援」の需要喚起策や2023年5月に新型コロナが「5類感染症」に移行したことでさまざまなイベントが県内各地で再開し、FIBAバスケットボールワールドカップ沖縄開催なども追い風となった。一方、人手不足によるサービスの低下や不足している2次交通、慢性的な交通渋滞など観光立県沖縄を取り巻くさまざまな課題も顕在化している。

当社は今年4月に社名を「株式会社JTB沖縄」から「沖縄JTB株式会社」に変更した。これは、それぞれ異なる課題に対して、地域に寄り添い、地域と共に課題解決に取り組んでいくことで、社会的有用性の高い「沖縄のためのJTB」であり続けていきたいという強い思いからである。

今年度の沖縄観光の見通しについては、円安による海外旅行の割高感や海外航空路線の復活による訪日外国人旅行者の需要回復などを考慮すると、コロナ禍以前の1千万人に近い入域客数が期待できる。しかし、沖縄の観光発展のためには、以前の状態にそのまま戻るのではなく、進化を遂げる必要がある。そこで当社は、観光消費額の拡大を図るため沖縄県の各エリアを一つのテーマパークに見立て、自然や文化、観光地を有機的につなげることでエリア全体の価値を高める取り組みにチャレンジしている。

さらに今年度は、JTB旅ホ連支部連合会の皆さまと連携しながら、本島中北部、那覇南部（周辺離島）、宮古島、八重山のエリアを四つに分けて、エリアごとの施策も実施していく。

今回の社名変更に伴い、当社独自のSDGs目標「沖縄と共に育つ」を設定し、サステナビリティに資する取り組みを企業活動に実装していくこととした。美しい海・豊かな自然・歴史・文化・ホスピタリティを有する沖縄は、日本だけではなく、世界有数の観光地となる無限の可能性を秘めている。沖縄の魅力を後世につなげていけるよう、持続可能な事業を展開していく。

2024年度
全国の取り組み

JTB旅ホ連特集

天領日田の奥座敷、奥日田温泉にある梅づくしの宿

奥日田温泉 うめひびき Okuhita Onsen UMEHIBIKI
JR九州グループ / JTB旅ホ連会員
〒877-0201
大分県日田市大山町西大山4587
TEL：0973 - 52 - 3700
https://www.umehibiki.jp/

鹿児島県・指宿温泉
いぶすき 秀水園
いぶすき秀水園は1968年6月創業、昨年度おかげさまで60周年を迎える事ができました。入口の玉砂利を踏んで玄関で靴を脱ぎ入ると、心なごむ枯山水の庭園が広がるロビーがあり、ご到着後は抹茶と和菓子のおもてなし。
客室は60周年の節目でリニューアルオープンしたモダン和洋室「鶴丸」をはじめ、純和風の趣を基調に応接間を備えた特別室やスタンダードな10畳と12.5畳の和室などをあわせ合計46室。
錦江湾を眺める最上階和洋室などがやすらぎ深い滞在を叶えている。
料理は「美味・滋味・香味の園」とも例えられる究極の料理。上品な盛り付け、味の奥深さに定評がある。
天然保湿成分が豊富な美肌の湯と言われる指宿温泉。大浴場と露天風呂でその醍醐味を源泉かけ流しで楽しめる。
指宿名物の砂むし温泉を楽しむなら、砂むし会館「砂楽」まで徒歩3分という近さ。
〒891-0406 鹿児島県指宿市湯の浜5丁目27-27
TEL 0993-23-4141　FAX 0993-24-4992
http://www.syusuien.co.jp

世界遺産
「明治日本の産業革命遺産」

萩城下町

松下村塾

恵美須ヶ鼻造船所跡

萩反射炉

毛利三六万石の城下町、長州・萩。
萩城からほど近い、かつて城を守る重臣たちが居を構えた萩城三の丸、毛利屋敷跡に、北門屋敷はあります。
江戸時代からほとんど変わらない町割りと、維新前夜の面影が色濃く残る場所。武家屋敷の風格と凛とした空気に、往時の息づかいが感じられます。
国の重要伝統的建造物群保存地区、そして世界遺産「萩城下町・旧上級武家地」であるこの場所に許された、唯一の旅館。
ようこそ北門屋敷へ。

世界遺産「萩城下町」の宿
萩城三の丸 北門屋敷
〒758－0057 山口県萩市掘内 210-12
TEL0838－22－7521　FAX0838－25－8144
http://www.hokumon.co.jp

白浜時間の中心地
私たちは、お客様に一生思い出に残る
「白浜時間」をお届けします。

紀州・白浜温泉 むさし
〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町868
TEL.0739(43)0634　FAX.0739(82)2020
予約専用電話 0739(33)7076
http://www.yado-musashi.co.jp